

震災関連記事のみの抜粋です

---

## 中外雑記

### 曹洞

● ▽大震災から一年目の神戸で新年を迎えた東福寺住職圓通幸温氏は「災後酬師膺大任／諸堂復旧此工竣／近来四大浸不整／出處諧宜退董春」と心境を偈に詠んだ。十五日に住職退任式と副住職の晋山式、並びに諸堂落慶、震災横死者諸霊一周忌法要等を厳修する。宗議会議員も退くという圓通氏に道友が問うた－「まだ引退するのは早いではないか。もっと頑張ったらどうですか」と。圓通氏は静かにこう答えた－「震災で心境が変わってしまったのですよ」。眠りからまだ覚めぬ時間に地の底から揺れて地上の全てが崩壊するのを体験した人々は、身体と心の奥深くに、他人からは窺い知れない、癒し難い傷を負ってしまったのだろうか。営々として山門護持に日々精進してきた歴史が一瞬にして崩れたに等しい。それは、形骸の上から判定し振り分けられた災害義援金によってはとうてい埋め合わせることのできない現実としてあるようだ。

---

### 神社界

#### 耐震拝殿に改修

●京都市伏見区の御香宮神社（三木善則宮司）は、社殿の老朽化に伴う平成の大修理を実施しており、室町時代の様子を復活させた緑色あざやかな本殿を既に完成させて、平成六年五月には正遷宮を斎行した。三木宮司は大修理の一環として拝殿を改修するにあたり、「参拝者が利用する機会の多い拝殿を、震災に強いものにしたい」と、昨年春から拝殿を耐震建築物に改造することを進めている。同神社の拝殿は入り母屋造り、瓦葺きの建物で、寛永二年（一六二五）に建造された。「三百五十年の間に二度の歴史に残る地震をくぐり抜けた拝殿だが、老朽化が進み、兵庫県南部地震クラスの揺れが襲ったらと思うと心配」。三木宮司は一年前の神戸の震災において、本殿は無事でも拝殿が倒壊したという例が多かった点を考慮し、京都府の有形文化財に指定されている拝殿を、府の文化財保護課に相談しながら、可能な限り耐震建物に改修することにした。工事は昨年春に着工され、耐震性を高めるために先ず建物を支える土台の石を鉄筋コンクリートで固め、老朽化した柱を交換し、土壁には板を通して補強する作業を進めている。完成は平成九年三月の予定。

---

### 実業

#### 話題の災害救助道具

●フジワラ産業(株) 同社（藤原充弘社長、大阪市西区境川）では昨年、兵庫県南部地震の発生に伴い、あらゆる災害から人命を守ろうと“安心ベッド”や“安心テーブル”などを開発し、各方面から注目された。引き続き、災害救助道具セット「ニュー纏（まとい）」を新たに開発し、NHKテレビなどでも紹介されて話題となった。このセットは本格的な救助隊作業が始まる前の緊急救助道具セットで、価格は二十一万三千元。セットの内容は次の通り。特製組み立て式長尺バール、特製穴あけスコップ兼バール、特製破碎用ハンマー、特製ツルハシ、特製油圧ジャッキ、ヒッパラ（荷締め機）、切断道具、ロープセット、カマセ木、防護用品セット、救急用品セット、工具類セット、

収納ボックス（高さ七十九センチ、幅四十六センチ、奥行三十八センチ、キャスター付き）、収納ボックス用カバー

▽藤原社長は昨年十月、同セットを護王神社（有田博重宮司、京都市上京区）に奉納＝写真【写真は省略】。また、廣田神社や湊川神社などにも奉納したほか、兵庫県南部地震から一年目にあたる十七日には、千葉県の松戸市役所に展示されることになっている。なお、同セットは既に全国各地の消防本部や寺院などが購入。今後も需要の伸びが予想されている

▽フジワラ産業は現在、「安心門扉」の開発に取り組んでいる。この門扉は開閉時に自動的にブレーキがかかる仕組みとなっており、クッションも取り付けられる。藤原社長は、「以前、高校生が門扉に挟まれて亡くなるという痛ましい事故が起きましたが、メーカーはこのような危ない門扉をなぜ製造したのか、その反省がありません。今後、同じような事故が起こる可能性があります。私どもは門扉専門のメーカーではありませんが、これで不慮の事故を防ぐことができれば」と語っている

▽兵庫県が主催する「防災機器グッズフェア」が二十日から三日間、神戸市中央区港島の神戸国際展示場一号館で開催され、フジワラ産業の災害救助道具セットも展示される。「震災とくらしシンポジウム」と題して講演会やパネルディスカッションなどが行なわれる。なお、同社製品についての問い合わせは、電話〇六（五八六）三三八八番まで。

---

## 真言

### 特別伝道で物故者追悼

●**高野山** 第六伝道団（団長＝森田光順日光院住職・兵庫県養父郡八鹿町）は兵庫県の四支所と共催して二月九日、枢議・参与会の特別伝道を執り行なう。会場は城崎郡城崎町にある県立大会議場で、約六百人が参加する見込み。当日は午前十時から開会で、まず稲葉義猛管長を導師に迎え理趣三昧の法要が執り行なわれる。同法要は兵庫県南部地震の物故者追悼のためのものでもある。続いてご詠歌と宗教舞を奉納。その後、本山から山花義有企画室長が参与会について説明する。今回の講師は、岡山の多聞寺住職で、落語家としても知られる吉田宥禅氏。講題は「与太郎の仏道入門」

▽十七日の午前五時四十六分、本山は「宗報」等で兵庫県南部地震の物故者を追悼するため全国の寺院・教会で鐘を鳴らし、供養の法要を執り行なうよう要請している。また午前九時から稲葉義猛管長の導師により「阪神・淡路」物故者追悼法会を営む。

---

### 地震犠牲者の追悼法要

●**智山派** 総本山智積院（高井隆秀化主）で、十七日午前六時の勤行の時、兵庫県南部地震の犠牲者の一周忌追悼法要が営まれる。また二十一日の初大師の日にも、地震犠牲者の特別法要が営まれる。二十二日は、宗務庁の職員、専修学院生らが献血を行なう。宗務庁舎一階の改修工事はほぼ終わり、中旬から引っ越しが始まり、一月いっぱい引っ越しを終了する。